教職論　Teaching Profession

対象学科（コース）：全学科
学年：1年次　学期：後期　単位数：2単位
担当教員名　　藤井　美保

1．概要

●授業の目的

教員免許法に規定されている「教職の意義等に関する科目」として、教員の役割および職務内容について講義を行い、進路選択に資する機会を提供する。

●授業の内容

ビデオ教材等により教員をとりまく現代的状況についての理解を促しながら、教職の意義や教員の役割、職務内容等について歴史的視点や国際的視点をまじえて解説する。また、教師の役割認知過程をたどることによって、生徒や保護者、同僚、地域住民等との関係の諸相を明らかにし、教師に求められる資質能力について考える。

2．キーワード

学習指導　生徒指導　聖職観　労働者観　専門職論　保護者　同僚　地域住民　教師文化

3．到達目標

①現場の教員をとりまく現実を知るとともに、教職の意義や教員の役割等について理解を深める。
②生徒や保護者、地域住民等との関係について考え、教員に求められる資質・能力について理解する。
③教職に対する意欲や適性を受講生自らが認識し、めざすべき教師像を各自が描けるようになる。

4．授業計画

1回　イントロダクション　－揺れ動く現代の教師役割－
2回　教師を取り巻く現実
3回　教師の役割　－学習指導－
4回　教師の役割　－生徒指導－
5回　教師役割の歴史的変遷
6回　専門職としての教師　－教職は聖職か？－
7回　専門職としての教師　－労働者としての教師－
8回　専門職としての教師　－専門職とは何か－
9回　教師の役割認知過程　－教師役割の形成－
10回　教師の役割認知過程　－役割相手としての生徒・保護者・同僚・地域住民－
11回　教職の特性
12回　教師に求められる資質・能力
13回　教師役割の国際比較
14回　全体のまとめ　－理想の教師像とは－
15回　試験

5．評価の方法・基準

平常点（リアクション・ペーパー等、30点）および筆記試験の点数（70点）により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

6．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

集中講義であるから、全授業への出席を原則とする。

7．教科書・参考書

●教科書は指定しない（必要に応じて資料を配付する）

●参考文献

油布佐和子『転換期の教師』日本放送出版協会　375.9/H-2
山崎準二『教師という仕事・生き方』日本標準　374.3/Y-1
永井聖二・古賀正義『< 教師 > という仕事＝ワーク』学文社　374.3/N-3

8．オフィスアワー

教育原理　Principle of Education, the 1 stperiod, Monday

対象学科（コース）：全学科
学年：1・2年次　学期：前期　単位数：2単位
担当教員名　　東野　充成

1．概要

●授業の目的

教育職員免許法に規定されている「教育の理念並びに教育に関する歴史および思想」に関して講義を行い、次の点を目標とする。

①教育を広く人間全体の営みの中に位置づけ、多角的に考察すること。
②子どもの発達・学習に関わる様々なエージェントの役割について理解するとともに、現代社会における子どもの育ちと学びについて理解を深めること。
③現代の学校教育を歴史的、国際比較的に見直し、その役割や意義とともに、課題についても探求できること。
④以上の点を踏まえて、自らが志向する教育観や子ども観を構築し、表現できるようにすること。

●授業の位置付け

授業は、大きく次の3つの柱からなる。

①教育には様々な近接する概念が存在する。本授業では、教育にまつわる多様な概念を解説した上で、教育的人間関係や教授法などの変遷に見る教育思潮、教育観などを講義する。
②子どもという存在は決して自明のものではなく、時代や空間が異なれば、子どもに対する考え方や発達のあり方も大きく異なる。本授業では、歴史的、通文化的な子どもや発達の多様性を踏まえたうえで、現代社会における子どもの発達・学習の課題等について講義する。
③学校教育は現在、教育の中心的な場となっているが、その役割や課題とはいかなるものなのか。現代の学校教育を歴史的、国際比較的に相対化し、その課題や役割について講義する。

2．キーワード

子ども観・教育観　生涯発達・生涯学習　初等教育・中等教育　職業教育　教育問題

3．到達目標

①自らの子ども観・教育観や志向する教育制度や教育実践を深める。
②多角的な営みとしての教育について、理解を深められるようにする。
③それらを的確に表現できるようにする。

4．授業計画

授業は講義形式でおこなう。配布資料や視聴覚教材等を適宜使用する。

1回　「教育」及びその近接概念について
2回　教育的人間関係の基本構造と教育者の条件
3回　教授法の変遷に見る教育観
4回　「子ども」と「大人」の思想史
5回　教育と子育て
6回　諸外国及び日本の学校教育制度の概要
7回　近代日本の教育の歴史と法制
8回　初等教育の現状と課題
9回　中等教育の現状と課題
10回　家族・学校・地域の連携
11回　不登校といじめ
12回　児童虐待
13回　少年非行
14回　現代教育の再構築-情報化社会と生涯学習-
15回　試験

5．評価の方法・基準

小レポート　30%
期末テスト　70%

期末テストは論述式で行う。また、小レポート作成に当たっては、論理的に文章が展開されているかを重視する。

6．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

①教員免許（数学）取得希望者は必ず履修すること。教員免許（工業）取得希望者は、履修することがのぞましい。

②講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。

③授業時間外には新聞等に目を通し、教育に関する最新の情報を摂取すること。

7．教科書・参考書

●教科書は使わないが、そのつど参考文献を指示する。

●参考文献

柴田義松他　　『教育原論』学文社 371/S-13

田嶋一　　『やさしい教育原理』371/T-4

8．オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育心理学　Educational Psychology

対象学科（コース）：全学科

学年：1・2年次　学期：前期　単位数：2単位

担当教員名　　今村　義臣

1．概要

●授業の背景

児童•生徒を指導•教育する立場にある者は、環境をコントロールし、子ども達が最大限の心身の発達を達成できるように援助する必要がある。そのためには人間の心のしくみの理解が必要である。心理学は、科学的な視点から人間の心のしくみに関する知識を授けてくれる学問であり、教育心理学は、その中でも教育的観点に焦点付けを行った知識を授けてくれる。

●授業の目的

ここでは、教育心理学で最低必要な知識である、発達、学習、学級集団、知能、人格・適応、および、障害児心理の諸知識を学習する。そこでは、随所に最近の脳科学で得られた知見を交え、脳を中心に据えた心の理解を深めていきたい。

●授業の位置付け

教育心理学は教職専門科目の中でも重要な科目の1つである。また、他の心理学の講義を同時に学ぶことによって、人間行動に対するより深い理解が得られるものと思われる。

2．キーワード

教育心理学、行動科学、認知科学、臨床心理学

3．到達目標

教育心理学で最低必要な知識（発達、学習、人格と適応、障害児教育等）の習得。

4．授業計画

1回　オリエンテーション

2回　発達1　こころ（脳）の基本的メカニズムを成長と発達の観点から学ぶ。

3回　発達2

4回　発達3

5回　学習1　学習の原理と学習指導について学ぶ。

6回　学習2

7回　学習3

8回　学級集団　学級集団を把握するための理論・方法を学ぶ。

9回　知能　知能のメカニズムについて学ぶ。

10回　人格と適応1　人格と適応の諸理論を学ぶ。

11回　人格と適応2

12回　人格と適応3

13回　障害児1　障害児の心理と教育について学ぶ。

14回　障害児2

15回　試験

5．評価の方法・基準

期末試験で評価する。

60点以上を合格とする。

6．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

配布資料は常に持参すること。ノートをとること。

7．教科書・参考書

●教科書

新教職課程の教育心理学　中西信男・三川俊樹編　ナカニシヤ出版 371.4/N-19

●参考書

適宜紹介する。

8．オフィスアワー

E-mail アドレス：gishin@std.mii.kurume-u.ac.jp

教育社会学　Sociology of Education

対象学科（コース）：全学科
学年：1・2年次　学期：後期　単位数：2単位
担当教員名　　東野　充成

1．概要

●授業の目的
教育職員免許法に規定されている「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」に関して講義を行い、以下の点を目標とする。
①教育と社会の相互規定的な関係について理解する。
②教育制度を他の社会制度との関連の中で理解し、その役割や課題等について考察を深める。
③以上の点を踏まえて、現代の学校制度や学校経営の役割及び課題について理解する。

●授業の位置付け
授業は、大きく次の3つの柱からなる。
①教育は社会からいかなる影響を受け、また社会にいかなる影響を及ぼしているのか。階層、エスニシティ、ジェンダーといった社会学の基礎概念をもとに講義する。
②現代の教育制度はそれ単独で存在するわけではなく、雇用制度や法制度、行政組織などとの関連の中で位置づけられる。このような、教育制度の構造、機能及び他の社会制度との関連について講義する。
③教育を取り巻く社会情勢や教育制度の構造などを踏まえて、現代的な学校経営のあり方について講義する。

2．キーワード

文化伝達・文化的再生産　エスニシティ　ジェンダー　サブカルチャー　教育制度・教育政策　学校経営・学級経営

3．到達目標

①教育社会学の考え方を理解すると同時に、社会科学の基本的な概念についても理解できるようにする。
②教育という現象を他の様々な社会現象との関係の中で捉えられるようにする。
③教育という現象の理解を通して、現代社会・現代文化・現代学校教育に対する相対的な視点を獲得する。

4．授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料や視聴覚教材等を適宜使用する。
1回　文化伝達としての教育－育児としつけ－
2回　文化的再生産と教育－家族・階層・言語－
3回　エスニシティと教育－人種、民族、国家－
4回　ジェンダーと教育
5回　メディアと教育
6回　子ども文化の変遷と現在
7回　若者文化の変遷と現在
8回　少年非行の社会学
9回　学校文化・教師文化・生徒文化
10回　学力とカリキュラムの社会学
11回　学校教育と職業
12回　教育政策の変遷と現在
13回　学校経営の現代的課題（1）
14回　学校経営の現代的課題（2）
15回　試験

5．評価の方法・基準

成績評価
小レポート　　30%
期末テスト　　70%
期末テストは論述式で行う。また、小レポート作成に当たっては、論理的に文章が展開されているかを重視する。

6．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

①教員免許（数学）取得希望者は、必ず履修すること。教員免許（工業）取得希望者は、履修することが望ましい。
②講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
③授業時間外には新聞等に目を通し、教育に関する最新の情報を摂取すること。

7．教科書・参考書

●教科書　特に指定しないが、参考書をそのつど指示する。
●参考文献
苅谷剛彦ほか著『教育の社会学』有斐閣 371.3/K-6
柴野昌山ほか著『教育社会学』有斐閣 371.3/S-8

8．オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。
higashi@dhs.kyutech.ac.jp

工業教科教育法　Method of Technology Education

対象学科（コース）：全学科
学年：3年次　学期：通年　単位数：4単位
担当教員名　　永田　萬享

1．概要

●授業の目的
教育職員免許法に規定されている「教科の指導法」に関して講義を行い、次の点を目的とする。
①工業科教育を広く人材育成システムの営みの中に位置づけ、多面的に考察すること。
②生徒の技術的発達、職業的発達の観点から工業科教育の役割について理解するとともに、現代社会における工業教育・技術教育の学びについて理解を深めること。
③現代の工業教育を歴史的、国際比較的に見直し、その役割や意義とともに、課題についても探求できること。
④以上の点を踏まえて、教育実践を有効にするために、「手段」の機能をよくするとともに、その技術的能力を高めることを目指す。

●授業の位置づけ
①工業科教育の歴史、教育目的、教育内容そして情報機器と教材の活用を含む効果的な教育方法について教育学的に検討する。
②教材論、授業論などの授業実践に関わる部分を中心に教育実践的検討を行う。

2．キーワード

工業科教育　教材研究　技術教育　職業教育

3．到達目標

①高校の工業の教師として工業科教育に関する基本的な知識、技術、技能の習得を目指して、工業教育の果たす役割の重要性を認識することができる。
②工業科教育の性格や内容、その存立基盤の特徴を明らかにしつつ、工業科教育の担い手として必要な資質を形成すること。

4．授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料や視聴覚教材等を適宜使用する。
1回　工業科教育と教育実践（教育実践における教師の役割）
2回　学校教育の課題
（総合学科の新設及び専門学科の改善充実）
3回　工業教育の役割と目標
（産業社会における工業技術教育のあり方）
4回　戦前の工業教育の歴史
（職工学校の創設、実業学校令、実業教育費国庫補助法）
5回　戦後の工業教育の歴史
（産業教育振興法の制定と工業技術教育の整備）
6回　学習指導要領の改訂と工業科の変遷
（学習指導要領のねらい、学習指導要領の構成）
7回　欧米における工業教育（1）
（ドイツの教育制度と工業技術教育）
8回　欧米における工業教育（2）
（アメリカの教育制度と工業技術教育）
9回　工業科の教育内容と方法（1）
（工業科の各科目の内容及び方法について検討する）
10回　工業科の教育内容と方法（2）（同上）
11回　工業科の教材研究の事例（1）（教材解釈と教材づくりを中心に教材研究のあり方を検討する）
12回　工業科の教材研究の事例（2）（同上）
13回　工業科の教材研究の事例（3）（同上）
14回　工業科における評価の特徴（授業評価と評価方法）
15回　試験
16回　普通教育と専門教育（普通教育としての技術教育と専門教育としての技術教育の違い）
17回　学校教育としての技術教育体系の成立
（工業化の人材育成機関としての学校）

18回　技術革新と工業教育の改編
（産業界の要請、工業教育の多様化）
19回　工業に関する学科の目標
（工業高校の目標と工業に関する各学科の目標）
20回　教科「工業」の目標と学科の目標
（教科「工業」の目標の変遷）
21回　学科の教育課程編成（生徒の実態、高校の制度改革を踏まえた教育課程のあり方）
22回　教材（教材の概念、教授学習過程における教材の位置）
23回　工業技術教育の指導性（物品製作法、オペレーション法、プロジェクト法について）
24回　教育評価
（学校教育における教育評価の役割・機能及び問題点）
25回　授業評価（教授学習過程における評価、評価方法）
26回　学習指導案の構成（１）
（学習指導案の構成、留意点について）
27回　学習指導案の構成（２）（同上）
28回　学習指導案例（１）
（「工業技術基礎」を事例として授業案を検討する）
29回　学習指導案例（２）（同上）
30回　試験

５．評価の方法・基準

成績評価は授業への参加程度と出席状況（20%）、講義の合間に行う小レポート（30%）、期末試験（50%）によって行う。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

①教員免許取得希望者（工業）は必ず履修すること。
②講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
③授業時間外には新聞等に目を通し、教育に関する最新の情報を摂取すること。
④教育現場を知ること、生徒を知ることが重要だと考えているので、講義の一環として工業高校の視察・見学を計画している。

７．教科書・参考書

●教科書は使わないが、そのつど参考文献を指示する。
●参考文献
文部科学省『高等学校学習指導要領』国立印刷局、1999年
斉藤武雄、田中喜美、依田有弘編著『工業高校の挑戦』学文社、2005年　375.6/S-2

８．オフィスアワー

本授業についての質問や学習相談を受けるため、授業終了後をオフィスアワーとする。なお､授業に関する質問等は､下記のメールアドレスで随時受け付ける。
nagata@fukuoka-edu.ac.jp

教科教育法（数学）Ⅰ

対象学科（コース）：総合システム工学科
学年：３年次　学期：前期　単位数：２単位
担当教員名　　山下　昭

１．概要

この授業では、中学校・高等学校の数学教師として身につけておかなければならない数学科教育の基礎的な事項を取り上げ講義する。具体的には、数学教育史、数学教育の目標、数学科学習指導法の基礎理論､数学科の指導内容についての解説が中心となる。

２．キーワード

西洋数学　数学教育の改良運動　数学教育現代化運動　数学教育の価値　問題解決学習

３．到達目標

この授業では、以下の点について理解し概説できるようになることを目標としている。
①明治以降の数学教育史
②数学教育の目標
③数学科学習指導法の基礎となる理論・数学科の指導内容

４．授業計画

授業が講義形式で行う。配布資料等を適宜試用する。
１回　数学教育の現状と課題
２回　数学教育史（数学教育の建設期－明治期－）
３回　数学教育史
（数学教育改良運動期ー大正期から昭和初期ー）
４回　数学教育史（戦中期ー昭和10年代ー）
５回　数学教育史
（生活単元学習から系統学習へー昭和20～30年代）
６回　数学教育史（数学教育現代化とそれ以降－昭和40年代）
７回　数学教育の目標（数学の特性）
８回　数学教育の目標（数学の価値）
９回　数学教育の目標（数学の教育的価値）
10回　数学科学習指導法（基礎理論Ⅰ）
11回　数学科学習指導法（基礎理論Ⅱ）
12回　数学科指導内容Ⅰ（代数）
13回　数学科指導内容Ⅱ（幾何）
14回　数学科指導内容Ⅲ（解析他）
15回　試験

５．評価の方法・基準

小テスト 30%
期末試験 70%
期末試験は論述式で行う。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

①教員免許（数学）取得希望者は必ず履修すること。
②講義内容の十分な理解を得るため、授業で指示する数学や数学教育の文献を各自読むこと。
③授業時間外には新聞等に目を通し、数学教育に関する最新の情報を摂取すること。

７．教科書・参考書

●教科書は使わないが、そのつど参考文献を指示する。
●参考文献
中学校学習指導要領解説　数学編　文部科学省　平成20年９月　教育出版
高等学校学習指導要領解説　数学編　文部科学省　平成21年７月
数学教育研究会編『数学教育の理論と実際』聖文社　平成13年　375.4/S-9
杉山吉茂『数学科教育　中学・高校』学文社　平成11年　375.4/S-10

８．オフィスアワー

教科教育法（数学）Ⅱ

対象学科（コース）：総合システム工学科
学年：3年次　学期：後期　単位数：2単位
担当教員名　　山下　昭

1．概要
この授業では、教科教育法（数学）Ⅰでの内容を基礎として、中学・高等学校数学の教材研究、授業構成法を学習し、さらにそれらをもとに学習指導案の作成法を学び、実際に学習指導案を作成する。また、最近、数学教育で重視されている「問題解決」や「創造性」について、その基本的な考え方について解説する。

2．キーワード
中学・高等学校数学科学習指導要領　教材研究　授業構成　学習指導案　問題解決　創造性

3．到達目標
この授業では、中学・高等学校数学科の具体的な指導内容について、以下の3点を目標とする。
①教材研究と授業構成の学習をもとに学習指導案が作成できるようになること。
②数学教育における「問題解決」や「創造性」について理解を深めること。
③それらを教材研究や授業構成に生かせるようになること。

4．授業計画
授業が講義形式で行う。配布資料等を適宜試用する。
1回　数学科授業概説
2回　中学校数学科学習指導要領
　　（指導要領の構成と数学科の目標）
3回　中学校数学科学習指導要領（A数と式　B図形）
4回　中学校数学科学習指導要領
　　（C関数　D資料の活用、数学的活動）
5回　高等学校数学科学習指導要領
　　（指導要領の構成と数学科の目標）
6回　高等学校数学科学習指導要領（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ）
7回　高等学校数学科学習指導要領
　　（数学A、数学B、数学活用）
8回　中学校数学科での教材研究と授業構成（1）
9回　中学校数学科での教材研究と授業構成（2）
10回　高等学校数学科での教材研究と授業構成（1）
11回　高等学校数学科での教材研究と授業構成（2）
12回　数学科指導計画と学習指導案の作成（中学校）
13回　数学科学習指導案の作成（中学校）
14回　数学科学習指導案の作成（高等学校）
15回　試験

5．評価の方法・基準
指導案の作成40%
期末試験60%
期末試験は論述式で行う。

6．履修上の注意事項、授業時間外における学習等
①教員免許（数学）取得希望者は必ず履修すること。
②講義内容の十分な理解を得るため、授業で指示する数学や数学教育の文献を各自読むこと。
③授業時間外には新聞等に目を通し、数学教育に関する最新の情報を摂取すること。

7．教科書・参考書
●教科書は使わないが、そのつど参考文献を指示する。
●参考文献
中学校学習指導要領解説　数学編　文部科学省　平成20年9月　教育出版
高等学校学習指導要領解説　数学編　文部科学省　平成21年7月
数学教育研究会編『数学教育の理論と実際』聖文社　平成13年　375.4/S-9
杉山吉茂『数学科教育　中学・高校』学文社　平成11年　375.4/S-10

8．オフィスアワー

教育課程論　Curriculum Study

対象学科（コース）：全学科
学年：2年次　学期：前期　単位数：1単位
担当教員名　　堺　正之

1．概要
今日の教育課題と教育課程の関連をふまえ、教育課程の成立史及び基礎理論を類型化して解説する。次に、日本における小学校・中学校・高等学校の教育課程編成の基準である学習指導要領の構造と、これに基づいて実施されている現在の学校における教育課程を事例に即して考察する。

2．キーワード
学校　教育課程（カリキュラム）　教科

3．到達目標
①各自が受けてきた学校教育の内容を教育課程という視点から対象化する。
②教育課程を構成する各領域の目標、内容、その現代的意義をふまえた指導の在り方について理解する。
③現代の課題に対応する教育課程の理論と実践について理解する。

4．授業計画
1・2回　はじめに－学校教育をとりまく状況－
　　以下　教育課程総論
3・4回　教育課程とは何か　・語義／意義　・領域／構造
5・6回　教育課程の変遷
7・8回　教育課程の類型
　　以下　教育課程各論
9・10回　教科（1）学習指導要領と教科の内容
11・12回　教科（2）中等教育段階における学習指導
13・14回　教科外の諸領域
　　（道徳・特別活動・総合的な学習の時間）
15回　小まとめと質疑

5．評価の方法・基準
授業への出席、レポート等の提出、最終試験の成績を総合的に評価する。

6．履修上の注意事項、授業時間外における学習等
授業の中で指示する。

7．教科書・参考書
田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵　著『新しい時代の教育課程　改訂版』有斐閣　2009年　375/T-5
参考書
1）山崎英則・片上宗二　編集代表『教育用語辞典』ミネルヴァ書房 370.3/Y-1
2）文部科学省『中学校学習指導要領解説－総則編－』 375.1/M-15/08-2

8．オフィスアワー
授業の前後の時間に質問を受け付けます。

特別活動の指導法　Method of Extra-class Activities

対象学科（コース）：全学科
学年：2年次　学期：前期　単位数：1単位
担当教員名　　堺　正之

1．概要

学校の教育課程を構成する領域として位置づけられる「特別活動」の歴史と今日的課題について、中等教育段階を中心としながら理解を深め、その指導原理とこれを運営してゆく際の基本的な問題について、具体的な事例をもとに考察する。

2．キーワード

学校　特別活動　学級活動（ホームルーム活動）　生徒会活動　学校行事

3．到達目標

① 日本の学校教育における特別活動の歴史的位置づけと、その今日的意義及びその指導原理についての理解を深める。
② 中学校及び高等学校の特別活動の内容を構成する「学級活動（ホームルーム活動）」、「生徒会活動」、「学校行事」の概要を理解する。
③生徒が人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養うための指導法を理解する。

4．授業計画

1・2回　特別活動の歴史と今日的課題
3・4回　特別活動の目標・内容・方法的特質
5・6回　特別活動の特別活動の指導計画・実践事例（1）
　　学級活動－中学校－
7・8回　特別活動の特別活動の指導計画・実践事例（1）
　　ホームルーム活動－高等学校－
9・10回　特別活動の特別活動の指導計画・実践事例（2）
　　生徒会活動
11・12回　特別活動の特別活動の指導計画・実践事例（3）
　　学校行事
13・14回　特別活動と教科活動・道徳・総合的な学習の時間
15回　　最終試験

5．評価の方法・基準

授業への出席、レポート等の提出、最終試験の成績を総合的に評価する。

6．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業の中で指示する。

7．教科書・参考書

相原次男、新富康央編著『個性をひらく特別活動』ミネルヴァ書房　375/M-16/8

8．オフィスアワー

授業の前後の時間に質問を受け付けます。

教育方法　Educational Method

対象学科（コース）：全学科
学年：3年次　学期：前期　単位数：2単位
担当教員名　　高田　清

1．概要

●授業の背景

今日の学校教育をめぐる状況は、学力格差、学ぶ意欲の低下、いじめや不登校等、さまざまな教育課題を提示している。保護者や社会の要望、信頼に応える実践的指導力を獲得するためには、教育実践についての確かな理論知と方法技術を学ぶ必要がある。

●授業の目的

学校教育において、教師は子どもたちの豊かで主体的な学習活動・生活活動を指導していくが、その指導の方法技術の持つ独自な特質を学ぶ。さらに、学校における教育活動を構成していく原理としての教育課程論を学び、それをふまえて授業と特別活動の実践的な指導の原理を学ぶことを目的とする。

●授業の位置付け

教職に関する科目の中でも、教育方法は最も実践的指導力に関わる領域で、各教科の指導法の基礎となるものである。

2．キーワード

学習指導要領　授業記録　学力　評価

3．到達目標

①今日の教育課題を理解し、学校教育の構造と役割を理解する。
②教育実践における「指導」の本質と方法技術の基本を理解する。
③学習指導と特別活動の独自な課題と指導方法を理解する。

4．授業計画

（1）教育と教育実践の方法技術
　1回　現代の子どもと教育の課題
　2回　教育実践とは何か
　3回　教育主体の原則と発達主体の原則
　4回　指導とは何か
　5回　教育実践における方法技術について
　6回　学校教育の構造と教育作用の構造
（2）教育課程の編成の原理
　7回　教育課程とは何か
　8回　学習の指導と生活の指導
　9回　教育課程編成の原理
　10回　教科つくりと教材解釈
（3）特別活動の指導原理
　11回　今日の子どもと特別活動の意義
　12回　特別活動の歴史
　13回　特別活動の指導原則
（4）情報機器の利用
　14回　教育実践と情報機器
　15回　情報機器の利用

5．評価の方法・基準

レポートの結果（70%）と出席状況（30%）で評価する。
60点以上を合格とする。

6．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

①基本的には講義だが、積極的な発言を期待する。

7．教科書・参考書

●教科書

特に指定しない。適宜プリントを配布する。

●参考書

高田清『学校教育実践の理論と方法』コレール社 375/T-3

8．オフィスアワー

takadaki@fukuoka-edu.ac.jp

生徒指導（進路指導を含む。） Student Guidance

対象学科（コース）：全学科
学年：２年次　学期：後期　単位数：２単位
担当教員名　　大迫　秀樹

１．概要

●授業の目的

この授業では「生徒指導、教育相談及び進路指導等」に関して講義を行い、以下の点について学ぶことを目的とする。

学校における教育活動は、教科指導と生徒指導に大別されるが、その最終的な目標は、生徒の人格の完成を目指すところにある。そのため、教科指導のみならず、生徒指導についての充実を図ることが重要である。そこで、いかにして、一人ひとりの生徒の個性の伸張を図りながら、同時に社会的な資質や能力・態度を育成し、現在及び将来において社会的な自己実現が可能となる資質・態度を育成していくのかといった視点から、教育活動について学んでいくこととし、その理解を深めていきたい。

●授業の位置付け

教育現場では、いじめや不登校、非行等の様々な問題が発生している。このため、教師には、生徒の心の問題を理解した上で、人格の健全な発達を促していくと同時に、不適応な問題行動に対しても適切に指導・援助していく技能が求められる。また、その領域の中には、進路指導も含まれる。これらの点について、講義と体験学習によって習得していく。

具体的には、生徒指導についての概要を把握した後に、生徒を理解するために必要な人格の基礎理論等について学ぶ。続いて、いじめや非行等の実際の問題行動について、事例等を通じて検討する。また、進路指導についての概要も学ぶ。さらに、具体的な対応について、カウンセリングの考え方や技法を中心に、小グループでの体験学習による実習などを通じて学ぶ。

２．キーワード

人格の発達　心理査定　いじめ　非行　不登校　進路指導　教育相談　カウンセリング

３．到達目標

①人格理解のための基礎理論について習熟する。
②カウンセリングの考え方について習熟する。
③教育現場において適切な生徒指導が行えるようになるための基礎技法を習得する。

４．授業計画

授業は講義形式でおこなう。ただし、一部体験学習（カウンセリング技法など）も取り入れる。配布資料を適宜使用する。

１回：生徒指導とは何か
２回：生徒指導の領域
３回：生徒指導の方法
４回：生徒理解　①　人格の発達
５回：生徒理解　②　発達の問題
６回：生徒理解　③　心理査定
７回：問題行動　①　いじめ
８回：問題行動　②　非行
９回：問題行動　③　不登校
10回：問題行動　④　その他
11回：進路指導とは何か
12回：進路指導の領域と方法
13回：カウンセリングの考え方
14回：カウンセリングの基礎技法
15回：まとめ

５．評価の方法・基準

受講態度および講義中に実施する小テスト等によって総合的に評価する。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

教員免許（数学）取得希望者は必ず履修すること。教員免許（工業）取得希望者は、履修することがのぞましい。

７．教科書・参考書

● 教科書を試用する。また、必要に応じて資料の配布、および参考文献の指示を行う。

８．オフィスアワー

なし（非常勤講師のため）

教育相談 Educational Counseling

対象学科（コース）：全学科
学年：２年次　学期：後期　単位数：２単位
担当教員名　　菊池　悌一郎

１．概要

●授業の目的

思春期・青年期は、子どもから大人への移行期として、身体、性、対人関係、社会的役割といったさまざまな側面で大きな変動がみられ、心理的な混乱が生じやすくなる。実際、思春期・青年期は、ライフサイクルの中でも心理障害が生じる危険性がもっとも高い発達期である。ところが、思春期・青年期の心理障害の中には、子どもから大人への発達過程で生じる一過性の心理的混乱と深刻な精神病理と関連する精神障害がともに含まれており、その対応が困難な場合も多い。そこで教育相談のため、適切な理解と対応が可能となるよう、思春期・青年期の心理的発達、心理障害、心理援助について学習する。

●授業の位置づけ

この授業では、まず思春期・青年期発達の特徴を理解し、さらにその心理障害との関連性を明らかかする。また心理障害の具体的な分類とその内容を記述する。後半では思春期・青年期に対する教育相談（心理援助・カウンセリング）の理論と方法についてまとめる。

２．キーワード

教育相談　思春期青年期　発達　心理障害　カウンセリング

３．到達目標

教育相談のため、適切な理解と対応が可能となるよう学習する。
①思春期・青年期の発達を理解する。
②思春期・青年期の心理障害を理解する。
③教育相談・理論と方法を理解する。

４．授業計画

１回：はじめに（教育相談の意義）
２回：発達とは
３回：発達段階
４回：思春期・青年期の発達①
５回：思春期・青年期の発達②
６回：思春期・青年期の発達③
７回：思春期・青年期の問題行動・病理
８回：不登校、摂食障害、暴力行為、自殺、心理障害への理解（その１）
９回：不登校、摂食障害、暴力行為、自殺、心理障害への理解（その２）
10回：教育相談の現状と課題
11回：教育相談の理論と方法
12回：教育相談・カウンセリングの理論と方法（その１）
13回：教育相談・カウンセリングの理論と方法（その２）
14回：講義の復習・演習
15回：試験

５．評価の方法・基準

期末試験で評価する

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

心理学、特に臨床心理学に関する書籍は多くあります。興味のあるものを読んでみてください。また、小説、マンガ、映画などにも人のこころや成長を扱ったものが多くあります。鑑賞をお薦めします。

７．教科書・参考書

●教科書：特に指定なし
●参考文献

下山：教育心理学Ⅱ　発達と臨床援助の心理学（東京大学出版会）371.4/K-28/2
下山：よくわかる臨床心理学（ミネルヴァ書房）146/S-9

８．オフィスアワー

メールアドレス：kikuchi@jimu.kyutech.ac.jp